



11月号 令和7年11月7日 発行

四中だより

朝霞市立朝霞第四中学校
埼玉県朝霞市栄町 5-1-60
TEL(048)466-4711
Fax(048)467-4744

目指す学校像

生き生きと学び、夢と希望を胸に、感動を実感できる学校

「表に見えるもの」のその先（奥）へ

～映画「平場の月」の公開に寄せて～

校長 おおた さだはる 太田 禎治

11月14日（偶然にも「埼玉県民の日」）に公開初日を迎える映画「平場の月」。市役所をはじめ市内のあちこちにポスターが掲示されています。かくいう本校も廊下に堂々と掲示していて、テレビ等でも主人公役の堺雅人さんが出演して映画の話をするなど、目にした人も多いと思います。原作の舞台が朝霞ということもあり、市内各所で撮影もされました。約40年前の主人公が中学時代のシーンの撮影では、朝霞四中が撮影場所を提供しました。まもなく開校50年を迎える本校は撮影場所としてはうってつけでした。

ようやく公開される「平場の月」ですが、本校で撮影されたのはちょうど1年前の11月9日10日の土日2日間。2・3年生の中にはエキストラとして撮影に参加してくれた生徒もいます。映画1本を撮影、編集し、公開にこぎつけるまで1年以上。この1年という時間が長いのか短いのかはわかりませんが、どれだけ多くの人がかかわったことか。2日もかかった撮影ですが実際の映画ではどれくらいの長さなのか。

私たち観客が観るのはもちろん完成した映画そのもの。俳優さんらが演じた役を通して作品を観ます。それはある意味「表に見えるもの」。その表の先には多くの人の努力や苦労、協力があつたことを感じとれると素晴らしいと思います。（映画の場合最後に流れるエンドロールを見るだけでも、ちょっとは想像できるかもしれません）

なにも映画に限ったことではありません。私たちの生活を取り巻く様々なもの。目にしているのは（見えているのは）、その表の部分だけなのかもしれません。それは、ものだけでなく、人に対しても同じこと。例えば、野球のアメリカ大リーグで2年連続チャンピオンとなったドジャースの大谷選手や山本選手。華々しい活躍の影で本人たちはどれだけの努力を積み重ねてきたのか。また、彼らを支える人々がどれほどだったのか。皆さんには、ぜひともものごとのその先（奥）に思いを馳せられるようになって欲しいと思います。